

第5回 山梨県自転車活用推進計画策定委員会 議事録

○日 時：令和元年8月28日（水） 午後1時15分～午後3時15分

○会 場：ホテル談露館（1F：アンバー）

○出席者

・委員（敬称略、50音順）

今井久、今中大介、大山勲、鎌田誠一、絹代、長倉富貴、早川誠司

・事務局

県土整備部長、県土整備部理事、道路整備課長、道路整備課総括課長補佐、道路整備課道路企画監、道路整備課課長補佐、道路整備課職員、観光部観光推進監、観光部主幹、観光企画課総括課長補佐、観光プロモーション課職員、観光資源課総括課長補佐、観光資源課職員、国際観光交流課職員

・県関係等

オリンピック・パラリンピック推進課長、オリンピック・パラリンピック推進課職員、消費生活安全課職員、リニア推進課、交通政策課職員、財産管理課職員、県有林課職員、治山林道課職員、耕地課職員、景観づくり推進室職員、道路管理課課長補佐、道路管理課職員、都市計画課課長補佐、都市計画課職員、教育委員会スポーツ健康課職員、県警本部交通企画課職員、県警本部交通規制課職員、甲府河川国道事務所計画課長、甲府河川国道事務所調査第二課長

○会議次第

1. 開 会

2. 議 事

(1) パブリックコメントでの意見と対応

(2) 山梨県自転車活用推進計画（案）

3. その他

(1) 計画の実施に向けた推進体制について

(2) 東京オリンピックテストイベントにおける観戦者動態等調査結果

4. 閉 会

○内 容

1. 開 会

司会：事務局

山梨県挨拶

- ・パブリックコメント意見及び、前回までの皆様のご意見、ご指摘事項を踏まえ、計画をつくったためご審議をいただきたい。
- ・今後、計画をどのように推進したらよいか皆様方からご意見を頂戴し、しっかり実行したいと考えている。

2. 議事

(大山委員、功刀委員は所用のため欠席である。)

- (1) パブリックコメントでの意見と対応
- (2) 山梨県自転車活用推進計画（案）

【委員】

- ・今回、マウンテンバイクに関するご意見が非常に多い印象を受ける。
- ・マウンテンバイクに関する意見は、何名から頂いたのか。

【事務局】

- ・件数はわかるが、人数は把握していない。

【委員】

- ・熱心な方がいるのか、多くの方がマウンテンバイクに興味を持たれているのか、どちらなのか。

【事務局】

- ・1人の方というわけではなく、多くの方からいただいているという状況であるが、その人数は把握していない。

【委員】

- ・件数だと、マウンテンバイクに関するものはどのくらいか。

【事務局】

- ・25 件である。

【委員】

- ・自転車活用推進計画で MTB がトピックスとなることは珍しいことから、MTB の団体の方からいろいろな意見をいただいているのではないか。
- ・他の自治体の自転車活用推進計画で特徴を示しているところは少ない。山梨県では、自然環境を活用し MTB を特徴として示していくのか、機運を醸成するまで待つのかどちらかと考えられる。
- ・災害時に、がれきの中でいきなり MTB を利用することは難しい。バランスを持ったまとめとしてほしい。
- ・シックスホイールスタイルは、CYCLE MODE だけで提唱されているものではない。シックスホイールズとして自動車メーカーを中心に昔から行われているものであり、車と自転車を楽しむものである。
- ・自転車活用推進計画を策定することで、貴重な第一歩を踏み出すことができたのではないか。
- ・市町村と協働して進めてほしい。
- ・サイクルツーリズムでは、オリンピックを活かし、山中湖畔を中心とした来訪者への展開が考えられる。
- ・サイクルツーリズムが民間ビジネスに結びつくものにする仕組みづくりことが重要である。

【委員】

- ・P. 27 の取組について、イベントに関しては、県民のみなさんが参加できるイベントを将来取り入れてほしいとの希望を持った。
- ・山梨県は自然が豊かであることは確かであるが、郷土愛ランキングで 40 位代である。
- ・山梨は素晴らしいところなので、県民のみなさんに推進計画を通して意識していただくきっかけとなるかもしれない。

【委員】

- ・意見が計画の中に反映されており、山梨県らしく、わかりやすくまとめられている。
- ・パブリックコメントの 16 番で、安全教育を小さい子供から行ってほしいとの意見がある。記述済となっているが、ここからがスタートになるので、市町村と連携して考えていってほしい。

【委員】

- ・パブリックコメントでは2次交通の意見は少なく、観光面が多い。イベントで来訪者を増やすことが現実的ではないかと感じた。

【委員】

- ・子供の自転車の教育について、オリンピックのスポンサーに小学校などで無償のイベントを行ってもらうなどしてサイクリングに対してのイメージを高めてほしい。
- ・一過性のものではなくオリンピック後も継続して進めてほしい。

【委員】

- ・P32の施策の4の年齢層に合わせた教育について、教材を作り、交通安全教育を行うことが明記されている。幅広く伝えるためには、だれでも再現できる教材は非常に有効となる。
- ・郷土愛が低いという観点で見直すと、人材の育成が重要となる。地域のガイドが増えると地域の機運が醸成される。
- ・サイクルツーリズムを通じて、県民の方を巻き込んでいくことが必要である。
- ・記載内容がMTBとロードの比重が高くなり、一般の方に対してハードルが高くなった。
- ・P.35に電動アシストを使ったサイクリング等の記載があってもよいのではないか。EV車とe-bikeと連携した楽しみ方も提案され始めている。

【事務局】

- ・サイクルツーリズムに関する人材育成に関しては、計画にも記載してあり、今後の課題という形では考えている。

【委員】

- ・イーバイクまでいなくても、電動バイクに関する記述を34ページに入れてほしいという点についてはどうか。

【事務局】

- ・最近、イーバイクを使われている方が多い。街中でもイーバイク、ママチャリの電動、またはスポーツ系のイーバイクを使っている方がいらっしゃる。
- ・少しずつ、利用者が増えてきているため、35ページなどに記載できればという事で、内容の修正を考えている。

【委員】

- e-bike は、ヨーロッパではかなり普及している。ドイツ・イタリアでは3割程度まで普及している。
- 日本で普及しない理由は 24km/h でアシストがなくなることが影響している。
- 計画に自転車を交通手段として取り入れてほしい。

【委員】

- オリンピックまで1年をきった。オリンピックは非常に貴重なものとなる。
- 自転車のスポーツとしての文化を浸透させてほしい。
- 県民の方が参加できるイベントがないため、県民の方のイベントを実施してほしい。

【委員】

- 用語集にオリンピックレガシーとあるが、レガシーは残ったものとのイメージがあるが、オリンピックの準備もレガシーに含まれる。オリンピックに向けていかに盛り上げるかは重要である。
- 安全安心が一番大事なものである。子供が自転車に乗る環境が危ないため、子供たちが安全に自転車に乗れる環境・教育が重要である。
- 山梨県の魅力を活かすため、県全体の取組として、さまざまな方と連携し進めてほしい。

3. その他

(1) 計画の実施に向けた推進体制について

【委員】

- 「やまなし自転車活用戦略会議」の本部会議と地域部会をまとめるような「懇談会」または「交流会」等の設置を提案したい。
- 地域部会として「レガシーロード戦略部会」とあるが、「オリンピックに関する内容だけではなく、多様な自転車活用（ポタリング、裏道ネットワーク、MTB等）を議論することが必要で、その議論ができるメンバーの選定、又は他の会（フットパス、まちづくりの会、レンタル、MTB等）との連携が重要と考える。

【事務局】

- ・今後、本部会議を設置し、本部会議における議論の中で、懇談会の設置等についても、検討していく。
- ・先行して設置する「仮称となるレガシーロード戦略部会」の協議内容については、オリンピックに関する取組内容が目立つが、他の地域部会のように自転車に関連した地域課題や、その地域で既に行われている「まちづくりの関する既存の組織」とも連携を図りたいと考えている。

【委員】

- ・本部会議、地域部会の設置期間はどのように計画しているか。

【事務局】

- ・本部会議については、本年度から長い期間維持していく。
- ・地域部会については、2箇所は本年度から、協議会に移行するまでの期間を考えている。

【委員】

- ・この会議の県全体の関係部署という項目が相当数で関わってくると思いますが、人数のイメージはあるのか。

【事務局】

- ・参加者の詳細については今後検討していく。

【委員】

- ・内容を充実させる枠組みは作られたのではないか。
- ・地域部会が充実し、サイクリストや地域の方を巻き込んだ方を入れてほしい。
- ・地域部会が横で連携して、みなさんでフィードバックできるようにしてほしい。

(2) 東京オリンピックテストイベントにおける観戦者動態等調査結果

【委員】

- ・山中湖畔の観戦は非常にハードルが高く、玄人の観戦者が多かった。
- ・オリンピック時は、一般の方が増えると思われるので、オリンピック時にはサイクルツーリズムの振興に役立てていただきたい。

【委員】

- ・交通規制の発表タイミングが遅かった。

- ・1都3県と広域にまたがるレースのため大変な部分があったと思う。
- ・観戦エリアが狭い。
- ・山中湖村は自転車通行可の遊歩道が整備されている。海外のリゾート地の雰囲気もあるのでPRして欲しい。

【委員】

- ・山中湖村は、だれもが走れる環境が整備されている。
- ・オリンピック時は山中湖を含む景観が世界に発信されるため、山梨を盛り上げるための鍵があるかもしれない。
- ・県民の方に向けた前向きな広報をしてほしい。

【委員】

- ・レガシーをつくっていくという意味合いも込めて、これから計画するようなイベントはあるのか。

【事務局】

- ・10月、あるいは11月にはオリンピック全体と、特に、ロードレースのPRブースを出しまして、県民の皆様に周知していくイベント等を予定している。

4. 閉会

以上